

達成動機測定方法の動向

The way of Achievement Motivation measurement

樋口 康彦

HIGUCHI Yasuhiko

目的

我々は、日常、頻繁に「彼はやる気があるから仕事を任せても大丈夫だ。」とか、「あの人はやる気がないからだめだ。」、「私の長所は、とてもやる気があることです。」などといった会話を耳にすることがある。もちろんやる気などというものは、状況によって異なった現れ方をするものであり、ある状況(課題)においてはやる気が高いが、ある状況(課題)においては極めて乏しいといったことが起こることは、他の心理的変数と同様であろう。例えば、勉強に対しては消極的だがクラブ活動に対しては積極的であるといったことや、また興味のある課題に対しては積極的に取り組むが、そうでないことには消極的になるというのはよく目にする現象である。

さて、「彼にはやる気がある。」という言葉は、過去の経験に照らし、自分あるいは自分の知っている平均的な人なら、多分諦めてしまうような困難なことにも努力を続ける人のことを形容しているのだと思われる。そして、多分そこには、ある人物と、それ以外の人の行動の平均とを、自分なりに定義している「やる気」を基に比較するという、コンピュータ・サイエンスや脳生理学がいくら発達しようとも容易には解明できない実に複雑な情報処理過程が存在していると思われる。

ここで言うやる気とは、心理学的用語を使うなら「達成動機」ということになるが、「過去の経験に照らして、何となく、彼は達成動機の高い人である」、あるいは「低い人である」、というとらえ方は当然科学的アプローチとは言えない。さて、そこで行動科学の一分野である社会心理学においては過去、達成動機に関してどのようなアプローチがなされてきたのであろうか。

数十年に渡る達成動機研究の中で蓄積されてきた研究知見は膨大である。また日本においても林(1967)、林・山内(1978)、宮本(1979)、宮本・奈須(1995)をはじめとして優れた入門書が何冊か発行されているため、ここでは概要を述べるにとどめたい。

最初に、達成動機の研究は、Murray(1938)が社会的欲求のリストの中に達成動機を取り上げ、それに注目したMcClellandが数々の実証的研究を積み重ねていったことに始まる。

達成動機の定義についてであるが、これは文字通り、何かを達成しよう、達成したいというこ

とに関する動機として定義されている。具体的に言うと Murray(1938)は達成動機の定義として (a)困難なことを成し遂げること, (b)自然物・人間・思想に精通し, それら进行处理し, 統制すること, (c)障害を克服し, 高い水準に到達すること, (d)自己を超克すること, (e)他者と競争し, これを凌ぐこと, (f)才能をうまく使い, 自尊心を高めること, に対する動機としている。また, McClelland, Atkinson, Clark, & Lowell(1953)はこの定義を参考にして, (a)卓越した基準を設定し, 達成しようとする, (b)独自のやり方で達成しようとする, (c)長期間かかる課題を達成しようとしている, といった達成動機の基準を挙げている。また日本における研究も, ほとんど全てが上記の定義に基づいて行われてきている。

定義が確定し, 次には, 達成動機の測定法が McClellandら(1953)の手によって開発された。彼らは, TATによる達成動機測定法を開発した。これは図版の中の様子について被験者に自由に想像させることによって, 被験者が抱いている無意識下の達成動機をとらえようとする試みであった。

具体的なプロセスとしては次の通りである。まず, 用いた図版は, (a)機械の側で, 2人の男性が働いている場面, (b)黒板を前にして, 少年が物思いに耽っている場面, (c)老人と青年が顔を近づけて話し合っている場面, (d)裸でベッドに横たわっている男性に2人の男性がナイフ(メス)のようなものを突き立てており, そしてそれを少年が真剣な顔で見つめている場面, という4枚であった。そして次に, 各図版ごとに, (a)絵の中に出てくる人物は, 今何を行っているのか, (b)このことが起こる前には, 何が起こったか, (c)絵の中の人物は, どのようなことを考えているのか, そして何を望んでいるのか, (d)これから先, どのようなことが起こるだろうか, という4つの質問を与え自由記述方式で回答を求めるのである。そして, 回答の中に, 例えば, (a)他人との競争事態を想定し, そして勝ちたいといった願望を表していること, (b)ユニークな事柄を達成したいという内容, (c)高い基準を設定し, それをクリアしたいという内容, (d)長期に渡る努力が必要な課題を達成したいという内容, 等の記述が見られるかどうかについて判定した上で, 彼らが考案した独自の基準に従って点数化していく, といったものであった。

その後, この形式によって様々な調査が行われた。中でも達成動機に注目を集めさせたのは, 達成動機と経済活動との関係について巨視的な立場から行った一連の研究(McClelland, 1961)であろう。McClellandは, 西暦1500年から1800年の300年間に発行されたイギリスの文学作品を分析し, 100行あたりにつきいくつの達成イメージが含まれているのかについて調べ上げ, それを, 各時代における人々の達成動機の指標とした。一方, 経済活動の指標としてはロンドンにおける石炭輸入量の増加率を取り上げた。結果, 物語に含まれている達成イメージの増加の約50年後に石炭輸入の急増が起こるということがわかった。この研究から, 国民の持っている達成動機が, その国の経済発展を推し量るひとつの目安であるということがわかったのである。

ところで, Murray(1938)は, 達成以外にも, 26に渡る動機のリストを作成したが, その中でも特に達成動機だけが群を抜く多さで研究対象とされてきたことは決して偶然ではなく, McClelland(1961)のこういったユニークな研究による影響が大きかったのではないかと考えられる。つまり, 達成動機が持つ生産的な側面と, 世の中の発展を重視する風潮とがうまく一致した結果であろうと思われる。

その後達成動機研究は, その測定方法の精緻化と平行して他の心理的変数との関係の解明に目

が向けられるようになっていく。

そこで本研究は1980年代以降、達成動機の測定がどのように行われてきているのかについて明らかにすることを目的に行う。

方法

調査

欧米における最近の文献を基に達成動機測定の潮流を確認してみたい。以下に研究内容、達成動機測定方法および達成動機を何次元で扱っているのかについて挙げる。

Marshall(1980)

達成動機と性役割アイデンティティが女性のキャリア志向とどのように関係しているのか調べた。

Self Descriptive Questionnaire の20項目を用いている。

1次元でとらえている。

Ackerman ら(1989)

達成動機の世代間による差異と、親子の類似性について調べる。

Work and Family Orientation Questionnaire(WOFO)

4次元でとらえている。

Heaven ら(1990)

高校生における達成動機と態度および性格の関係について調べる

Achievement motivation scale の改変した12項目の質問紙を用いている。

1次元でとらえている。

Fontaine(1991)

達成動機と不安、成功期待などの関係が社会的文脈(居住地、性別など)によってどのように変わってくるのかについて調べる。

The Prestatie Motivatie Test voor Kinderen(PMT-K)という33項目からなる質問項目により測定している。

1次元でとらえている。

Lobel ら(1993)

イスラエルにおける、キブツの男女と都市部の男女における、自尊心、達成欲求、性役割志向について調べる。

The Mehrabian Achievement Scale の34項目を用いている。

1次元でとらえている。

Schmalt(1999)

グリッドテクニックによる達成動機測定が妥当かどうかについて調べる。

Achievement Motive Grid(AGM)という、多義的な絵(18枚)を見せて、それがどんな状況かについてあらかじめ用意された記述の中から選ぶ。

1次元でとらえている。

Busato(1999)

達成動機などと学習スタイルがどのように関係しているのか。

prestatie—motivatie—test(PMT)という達成動機、失敗恐怖を測定する項目を用いている。なお達成動機を測定する項目は47項目である。

1次元でとらえている。

Tauerら(1999)

競争状況に置いて達成動機が被験者に与える効果について調べる。

Personality Research Form(PRF)から取った達成指向性に関する16項目を用いている。

1次元でとらえている。

McEwanら(1999)

マスターコースの看護学生における達成動機と学業成績の関係について調べる。

Mehrabian Achieving Tendency Scale(MATS)の36項目を用いている。

1次元でとらえている。

Sturman(1999)

達成動機、タイプA行動、達成指向性の関係について調べる。

Winterによる4枚のTAT図版を用いている。

1次元でとらえている。

Subramaniam(2002)

ホテルのマネージャの会社に対するコミットメントと達成動機との関係に関する研究。 Manifest Needs Questionnaire から取った8項目を用いている。

1次元でとらえている。

Hansemark(2003)

「達成動機、ローカスオブコントロール」と「起業」との関係について調べている。

CMPSのサブスケールである15の質問項目およびTATを用いている。

1次元でとらえている。

Byrne(2004)

AMI の英語, ドイツ語, イスラエル語版の等質性についての研究。

AMI という質問項目を用いている。

3次元でとらえている。

Harris(2004)

達成動機を含む様々な性格特性と知能の関係についての研究。

PRF から取った 16 の質問項目を用いている。

1次元でとらえている。

Puca(2005)

「達成動機」と「成功, 失敗予測」の関係について検討している。

MMG という TAT 図版を用いている。

2次元でとらえている。

ちなみに MMG が TAT 図版でありながら, なぜ 2次元での測定が可能かという点, 図版を「成功への希望」と「失敗恐怖」を測定する図版に分けているからである。

Woo(2007)

大学生と社会人における達成動機の差異に関する研究。

AMI という質問項目を用いている。

自己確信, 野心, 自己管理の 3次元でとらえている。

Capa(2008)

達成動機と課題の困難さの交互作用についての研究。

PRF(フランス語版)という 16 の質問項目を用いている。

1次元でとらえている。

Tripathi(2008)

アメリカ人とインド人における達成動機の質の違いについての研究。

MMG という TAT 図版を用いている。

2次元でとらえている。

Pang(2009)

「達成動機」と「様々な同僚に対する記憶, 好意度」の関係に関する研究。

PSE という TAT 図版によって達成動機を検討している。

1次元でとらえている。

Story(2009)

達成動機と「成功期待, 認知欲求, 自己強化」の関係についての研究。
CLAM という 49 の質問項目を用いている。
2次元でとらえている。

Young(2009)

運(幸運)に対する考え方と達成動機に関する研究。
Spence と Helmreich による 8 項目を用いている。
1次元でとらえている。

Baker(2010)

達成動機と「態度, 学習成績」の関係についての研究。
メーラビアンにより 13 項目を用いている。
1次元でとらえている。

Luan(2010)

達成動機と学業成績の関係についての研究。
13 項目からなる質問項目を用いている。
1次元でとらえている。

Sluis ら(2010)

達成動機の性差についての研究。
学習に対する達成動機 10 項目と一般的な達成動機 18 項目の計 28 項目からなる質問項目を用いている。
1次元でとらえている。

全体として, 研究者ごとに様々な測定方法が用いられていると言える。

考察

TAT 形式によって一次的に測定された達成動機とは, 一体何を表しているのだろうか。競争性の高さであろうか, 集団の中でイニシアティブを取ることの高さであろうか, それとも計画性の高さであろうか。多分, TAT で測定された達成動機とはその次元が明らかではない, 一般的なエネルギーのようなものではなかいかなと思われる。そこで, TAT で測定された達成動機得点を, 競争場面, リーダーシップを発揮する場面, 勉強の場面という全ての状況に当てはめて良いのかとなると, 決してそうとは言えないということになる。達成動機は本来, 多次元的構成を成しており(Jackson, Ahmed, & Heapy, 1976 ; Cassidy & Lynn, 1989), その測定にあたっても多次元的にとらえなければ他の変数との関係について矛盾した結果を示す可能性がある。

さて、1980年代以降の研究でも1次元でとらえたものが多いと言える。しかし多次元的構成を成しているものを一次元でとらえ、他の変数との関連を論じることは意味がないばかりでなく、誤った結論を導くことにもなりかねない。

研究ごとに矛盾した結果が示されることがあるのはこういったことが原因になっているのかもしれない。

まとめと今後の課題

達成動機は研究者ごとに1次元でとらえられることもあれば、2次元、3次元でとらえられることもある。しかしこれでは他の変数との関係をとらえる際、研究ごとに矛盾した結果が示されかねない。

以上の問題点を鑑み、今後は以下のような研究が求められるであろう。

1. 達成動機は本来、多次元的構成をなしており、その測定にあたっては、多次元的にとらえなければ、その真の姿をとらえることはできないという概念に基づき、達成動機を因子分析によって多次元的にとらえる。

2. 達成動機を因子分析によって多次元的にとらえた上で、従来問題とされてきた変数との関係を、新しい観点から再度とらえ直す。そして、達成動機のどの次元がどのような変数から影響を受け、またどのような変数に影響を与えるのかについて、従来よりももっと厳密な観点から明らかにしていく。

引用文献

- Ackerman, L. & Ackerman, P. L. 1989 Generational Differences and Parent-Child Resemblance in Achievement Motivation and Locus of Control: A Cross-Sectional Analysis. Personality and Individual Differences, 12, 1237-1242.
- Alper, T. G. 1973 The relationship between role orientation and achievement motivation in college women. Journal of Personality, 41, 9-31.
- Alper, T. G. 1974 Achievement motivation in college women: A new-you-see-it-now-you don't phenomenon. American Psychologist, 29, 194-203.
- Atkinson, J. W., & Litwin, G. W. 1960 Achievement motive and test anxiety conceived as motive to approach success and motive to avoid failure. Journal of Abnormal and Social Psychology, 60, 52-63.
- Baker, K. A., Tarmizi, R. A., Mahyuddin, R., Elias, H., Luan, W. S., & Ayub, A. F. M. 2010 Relationships between university students' achievement motivation, attitude and academic performance in Malaysia. Procedia Social and Behavioral Sciences, 2, 4906-

4910.

- Busato, V. B., Prins, F. J., Elshout, J. J., & Hamaker, C. 1999 The relationship between learning style, the Big Five personality traits and achievement motivation in higher education. Personality and Individual Differences, 26, 129-140.
- Byrne, Z. S., Mueller-Hanson, R. A., Cardador, J. M., Thornton III, G. C., Schuler, H., Frintrup, A., & Fox, S. 2004 Measuring achievement motivation: tests of Equivalency for English, German, and Israeli versions of the achievement motivation inventory. Personality and Individual Differences, 37, 203-217.
- Capa, R. L., Audiffren, M., & Ragot, S. 2008 The interactive effect of achievement motivation and task difficulty on mental effort. International Journal of Psychology, 70, 144-150.
- Cassidy, T., & Lynn, R. 1989 A multifactorial approach to achievement motivation: The development of a comprehensive measure. Journal of Occupational Psychology, 62, 301-312.
- Cole, J. L. 1974 The relationship of selected personality variables to academic achievement of average aptitude third graders. The Journal of Educational Research, 67, 329-333.
- 土井聖陽 1982 達成動機の二次元説—親和的達成動機と非親和的達成動機— 心理学研究, 52, 344-350.
- Fontaine, A. M. 1991 Impact of Social Context on the Relationship between Achievement Motivation and Anxiety, Expectations or Social Conformity. Personality and Individual Differences, 12, 457-466.
- 林 保(編著) 1967 達成動機の理論と実際 誠信書房
- 林 保・山内弘継 1978 達成動機の研究 誠信書房
- Hansemark, O. C. 2003 Need for achievement, locus of control and the prediction of business start-ups: A longitudinal study. Journal of Economic Psychology, 24, 301-319.
- Harris, J. A. 2004 Measured intelligence, achievement openness to experience, and creativity. Personality and Individual Differences, 36, 913-929.
- Heaven, P. C. L. 1990 Attitudinal and Personality Correlates of Achievement Motivation among High School Students. Personality and Individual Differences, 11, 705-710.
- Horner, M. S. 1968 Sex differences in achievement motivation and performance in competitive and non-competitive situations. Unpublished doctoral dissertation.
- Jackson, D. N., Ahmed, S. A., & Heapy, N. A. 1976 Is achievement a unitary construct?. Journal of Research in Personality, 10, 1-21.
- Knapp, R., & Garbutt, T. 1958 Time imagery and the achievement motive. Journal of Personality, 26, 426-434.
- Lobel, T. E., & Agami-Rozenblat, O. 1993 Self-Esteem, Need for Achievement

- and Sex-Role Orientation among Kibbutz and Urban Men and Women. Personality and Individual Differences, 15, 523-529.
- Marshall, S. J. & Wijting, J. P. 1980 Relationships of Achievement Motivation and Sex-Role Identity to College Women's Career Orientation. Journal of Vocational Behavior, 16, 299-311.
- McClelland, D. C., Atkinson, J. W., Clark, R. A., & Lowell, E. L. 1953 The achievement motive. New York:Appleton century crofts. Pp.110-114.
- McClelland, D. C. 1961 The achieving society. New York:Van Nostrand.
- McClelland, D. C., & Winter, D. G. 1969 Motivating economic achievement. New York:Free Press.
- McEwan, L., & Goldenberg, D. 1999 Achievement motivation, anxiety and academic success in first year Master of Nursing students. Nuese Education today, 19, 419-430.
- 宮本美沙子 1979 達成動機の心理学 金子書房
- 宮本美沙子・奈須正裕(編著) 1995 達成動機の理論と展開 続・達成動機の心理学 金子書房
- Murray, H. A. (Ed.) 1938 Explorations in Personality:A clinical and experimental study of fifty men of college age. New York: Oxford University Press. 外林大作 (訳編) 1961 パーソナリティ(上・下) 誠信書房
- Pang, J. S., Villacorta, M. A., Chin, Y. S., & Morrison, F. J. 2009 Achievement motivation in the social context:Implicit and explicit Hope of success and Fear of Failure predict memory for and liking of successful and unsuccessful peers. Journal of Research in Personality, 43, 1040-1052.
- Puca, R. M. 2005 The influence of the achievement motive on probability estimates in pre- and post-decisional action phases. Journal of Research in Personality, 39, 245-262.
- Schmalt, H. D. 1999 Assessing the Achievement Motive Using the Grid Technique. Journal of Research in Personality, 33, 109-130.
- Sluis, S., Vinkhuyzen, A. A. E., Boomsma, D. I., & Posthuma, D. 2010 Sex differences in adults' motivation to achievement. Intelligence, in printing.
- Story, P. A., Hart, J. W., Stasson, M. F., & Mahoney, J. M. 2009 Using a two-factor of achievement motivation to examine performance-based outcomes and self-regulatory processes. Personality and Individual Differences, 46, 391-395.
- Sturman, T. S. 1999 Achievement Motivation and Type A Behavior as Motivational Orientation. Journal of Research in Personality, 33, 189-207.
- Subramaniam, N., McManus, L., & Mia, L. 2002 Enhancing hotel managers' organisational commitment:an investigation of the impact of structure, need for achievement and participative budgeting. Hospitality Management, 21, 303-320.

- Tauer, J. M. , & Harackiewicz, J. M. 1999 Winning Isn' t Everuthing:Competition, Achievement Orientation, and Intrinsic Motivation. Journal of Eeperimental Social Psychology, 35, 209-238.
- Tripathi, R. , & Cervone, D. 2008 Cultural variations in achievement motivation despite equivalent motivational strength:Motivational concerns among Indian and American corporate professionals. Journal of Research in Personality, 42, 456-464.
- Winterbottom, M. R. 1958 The relation of need for achievement to learning experience in independent and mastery. Motive in fantasy, action, and society. New York:Van Nostrand.
- Woo, S. E. , Gibbons, A. M. , & ThorntonIII, G. C. 2007 Latent mean differences in the facets of achievement motivation of undergraduate students and adult workers in the US. Personality and Individual Differences, 43, 1687-1697.
- Young, M. J. , Chen, N. , & Morris, M. W. 2009 Belief in stable and fleeting luck and achievement motivation. Personality and Individual Differences, 47, 150-154.